

JENESYS2019 ASEAN 派遣プログラム第6陣の記録 テーマ：日本文化交流，派遣国：フィリピン

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム JENESYS2019 の一環として、大学生 16 名が 2020 年 2 月 4 日～2 月 12 日の 8 泊 9 日の日程でフィリピン派遣され、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進、及び日本の魅力等の積極的な発信を目指し、「日本文化交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。一行はフィリピン訪問中、日本の在外公館、国際協力機構の現地事務所や日系企業等への訪問・視察を通じて、日本とフィリピンの関係性および日本の国際貢献に関する知見を深めました。また、学校交流を通し、日本文化の特色を説明し、同世代の学生や地域の人々と相互理解を深めました。一行はプログラム中、フィリピンにおける対日理解の促進、両国間の信頼関係増進の基盤強化を目的として、各々の関心事項や体験について SNS を通じた対外発信をしました。また、帰国前の報告会では、訪比経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加者所属先・人数】 東海大学 6 名、東北大学 5 名、東京外国語大学 5 名

2. 日程

- 2 月 4 日（火） 訪比
【オリエンテーション】
- 2 月 5 日（水） 【表敬】在フィリピン日本国大使館訪問
日・フィリピン関係に関するブリーフィング兼意見交換
【表敬】フィリピン政府国家青年委員会 (National Youth Commission)
- 2 月 6 日（木） 【ブリーフィング】JTB マニラ支店訪問
(日本人のフィリピン観光に関するブリーフィング)
【ブリーフィング】JICA マニラ事務所訪問：日本によるフィリピンに対する 協力事業に関するブリーフィング)
- 2 月 7 日（金） 【学校交流】リセウム・オブ・ザ・フィリピン大学 (Lyceum of the Philippines University) 訪問と現地学生との交流
- 2 月 8 日（土） 【視察】ケソン市ベテラン・ビレッジ地区家庭訪問
- 2 月 9 日（日） 【視察】バセコ地区にてボランティア活動
【視察】マニラ市内視察（リサール公園，サンチャゴ要塞，マニラ大聖堂，サンオーガスチン教会，カサマニラ）

2月10日（月）【学校交流】「さくら日本語学校（Sakura Japanese Language School）」 訪問と日本語学習者との交流
 【学校交流】ピトゴ高校（Pitogo High School）訪問と日本語学習者との交流
 【ブリーフィング】日系 NGO ユニカセ・コーポレーション訪問と青少年交流事業に関するブリーフィング
 【ワークショップ】 報告会準備

2月11日（火）【ワークショップ】
 【報告会】

2月12日（水） 離比

3. プログラム記録写真

	
<p>2月4日【オリエンテーション】</p>	<p>2月5日 【National Youth Commission】</p>
	
<p>2月6日【ブリーフィング】 JTB マニラ支店</p>	<p>2月6日【視察】 JICA フィリピン事務所</p>



2月7日【学校訪問】
フィリピン大学



2月8日【視察】
ベテラン・ビレッジ地区



2月9日【視察】
バセコ地区にてボランティア活動



2月9日【視察】
マニラ市内



2月10日【学校交流】
さくら日本語学校



2月10日【視察】
ユニカセ・コーポレーション

	
<p>2月11日 【成果報告会】</p>	<p>2月11日 【修了証授与】</p>
	
<p>2月11日 【修了証授与】</p>	<p>2月11日 【修了証授与】</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生（東海大学）

ただ知るだけと実際に見ることでは大きな差があると感じた。特に国民性などは実際に話してみなければわからないことが多くあり、コミュニケーションを通して印象が大きく変わったということが多々あった。

◆ 大学生（東海大学）

今私が JENESYS プログラムを終えて最も強く感じることは、自分の目で見たことが最も信じられるリアルであるということだ。渡航前にも、東南アジア特にフィリピンについては大学の講義で学ぶことがあり現在の人口や GDP 等の統計や、基本情報についての知識は持っていた。しかし、実際に現地に到着し様々なマニラ市の地域や企業、団体に訪問して今までとフィリピンに対するイメージが大きく変わった。貧富の差が激しく、日本とは大きく異なったインフラの整備状況や独特な食文化等を経験できたことは大きな財産である。このプログラム終了後、私は自らがこのプログラムで経験し学んだことを大学においての説明会や、継続して利用している SNS などのアプリを通して発信していきたいと考える。

◆ **大学生（東北大学）**

今回のプログラムで最も感じたことは日本から見るフィリピンと現地で見るとフィリピンのギャップである。日本ではフィリピンは治安の良くない国というイメージがある。確かにフィリピンは安全でない面もあるかもしれない。しかし実際現地に行ってみるとホスピタリティに溢れた人達ばかりで心が温まった。こういったギャップを少しでもなくしていきたい。そのために、バイアスのかかった報道などに惑わされず、様々な情報を発信し、日本、フィリピンの相互理解が深められる環境を作っていきたい。

◆ **大学生（東北大学）**

フィリピンは現在日本の援助を受けているが、急速に成長しているのを感じた。日本に比べて若者中心の社会で、その若者たちは自分の将来について確固たるプランを持っていた。この先 50 年後はおそらく日本に引けを取らないもしくは日本以上の豊かな国になると感じられた。そんな成長只中のフィリピンで働く日本人もバイタリティーに溢れていた。自分の中のぶれない軸を持って、目標に向かって突き進むことが国際社会で活躍するには必須であると思った。

◆ **大学生（東京外国語大学）**

今回のフィリピン滞在中、おもてなしは日本のものだけではないと感じた。現地の方の待遇に本当に感動した。帰国後は、それらの交流を通して感じた東南アジアの親しみやすさを中心に発信し、日本人の海外交流促進を図っていきたい。

◆ **大学生（東京外国語大学）**

在比日本国大使館の方を始め、普段関わることのできない方々にたくさん出会うことができ、彼らから多くの話を聞く中で自分の中にあった国際社会の中で働くことへのイメージとの乖離に気がつくことができた。

5. **受入れ側の感想（抜粋）**

◆ **大使館関係者**

派遣プログラムを修了し、これからがとても重要です。皆さんの行動計画を必ず実行して行って欲しいです。（在フィリピン日本国大使館）

◆ **訪問先関係者**

先日 6 日に JENESYS プログラムにご参加中の学生様がいらっしゃいまして、皆さん大変積極的な姿勢で講義に参加してくださいました。プログラム中の様々なアクティビティを通して生徒様が現場から何を感じ取ったのか、また進路のキャリア選択にどのような影響を及ぼしたか非常に興味深く、フォローさせていただき、本来のスタディツアーを、今後も提供できれば、我々にとっても良い機会になるでしょう。（JICA フィリピン事務所）

6. 参加者の対外発信



マニラ湾バセコ地区について発信

現地スタッフの方々や子ども達と一緒に、海岸の清掃活動に取り組んだ。ごみ問題はグローバル化しており、海洋プラスチックごみは今、世界中で大きな問題となっている。ごみ処理のお金をどの国が負担するかに焦点が当てられがちだが、ごみは処理をしても消えることはない。それに、何をゴミだと思うかは人によって違う。いつも無意識に行っている「捨てる」という行為について考え直す貴重な機会となった。

フィリピン市内より発信

JENESYS プログラムに参加しているメンバーです。無事マニラに到着しました。これから学んだ事や感じた事をどんどん発信していきます！日本とフィリピンの若者を繋ぐ架け橋になれるよう、9日間全力を尽くします。フィリピン交通事情：道路編-とにかく人と車が多い。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

<p>Great East Japan Earthquake</p> <p>Date :2011/3/11 14:46</p> <p>Magnitude :9.0</p> <p>Height of tsunami(highest) :17.3M (Miyako city)</p> <p>Fatalities and still missing :about 26000</p> <p>Action plan (in 3 months)</p> <p>We're going to research which place is better to learn about the wisdom about disaster make appointments with those places plan for the tour for the Philippines</p> <p>Luzon earthquake</p> <p>Date : April 22, 2019</p> <p>Magnitude 6.1</p> <p>8 deaths</p>	<p>Outline</p> <p>When: April-May Where: high school ex) Kodaira High School</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> Sister school in Australia, the US, and Taiwan Second foreign language: Chinese, Korean, German, and French </p> <p>Language studying only • The lack of relationship with South East Asia</p> <p>Our action plan is...</p> <p>To give a lecture at high school</p> <p>~cooperate with a volunteer group~</p>
---	---

アクション・プラン① 東北大学
3ヶ月後、自然災害について知恵や教訓を学ぶには、どの場所がいいかリサーチし、フィリピンの人達の為にツアーを催行する。

アクション・プラン② 東京外国語大学
2020年4月から5月
ボランティアグループと高校生(小平高校)に講義をする。

<p>How to spread our experiment</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNS • Event of experience  • International Fair  • HP   	
<p>Our Action Plan</p> <p><i>Suggestion :</i></p> <p>Establishing organization conducted by youth</p>  (Tokai Organization of Youth) <p><i>Purpose :</i></p> <p>Creating opportunities for youth to touch overseas</p>	<p>アクション・プラン③ (東海大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私達の経験を SNS・イベント・国際フェア・ホームページで発信する。 ・ 提案：若い世代で運営する組織の立ち上げ 目的：彼らが海外に触れる機会を得る為

事業実施団体：株式会社 J T B